



三笠だより

舞鶴市立三笠小学校
学校だより 6月号
令和8年5月29日発行

命の循環を感じる体験を

5月、どの学年・学級でも、さまざまな植物の種まきや苗植えを行いました。畑にはきゅうり、じゃがいも、万願寺甘とう、プランターにはアサガオ、ヘチマ、ヒョウタン、ミニトマト、花壇にはオシロイバナやヒマワリ、フウセンカズラなど、それぞれが目的をもって育てています。自分で育てたい植物を選ぶ学びや、理科の観察を目的とした学びなど、その意図はさまざまです。

ある日、2年生がミニトマトの苗を植えていました。「おいしいトマトが実るには、どうしたらいいのかなあ」と尋ねると、子どもたちから、「毎日水やりをするよ」「お日様に当てないと」「虫をとらないと」といった声が返ってきました。さらに、「よい虫は大事なんやで。カエルとかミミズとか。悪い虫はあかん。アブラムシとか」と、具体的な話も聞かせてくれました。どうしてそんなに詳しいのか尋ねると、先日、万願寺甘とうを植える際に地域の先生に教えていただいたとのことでした。実際に土に触れ、苗を植える体験の中で学んだことだからこそ、知識がしっかりと子どもたちの中に根付き、自分の言葉となって現れているのだと感じます。体験が生きた学びとなっていることを嬉しく思いました。

また、植物を育てることは、「命の循環」に出会うことでもあります。「2年生からプレゼントしてもらったアサガオの種」は1年生にとって特別なものです。昨年大切に育てられたアサガオの命が種となり、今年また新たな命として芽吹いていきます。その種には、育てた子どもたちの思いや経験も込められています。1年生の「もらった命を大切に育てたい」という気持ちは、きっと次の学年へと受け継がれていくことでしょう。



毎朝水やりをする1年生

さらに、畑で育てているきゅうりやじゃがいもなどについては、芽の伸び方や葉の大きさの違いに目を向けながら、「土の中では何が起きているのだろう」と想像を広げています。日々の世話の中で、見えないところで命が育まれていく不思議さや力強さにも気付いていくことでしょう。そして収穫の際には、自分たちが育てたものをいただくことを通して、「命をいただく」という感覚にも出合っていきます。

このように各学年の取組は異なりながらも、「命がつながる」という大きな学びへと結びついています。子どもたちは日々の観察や世話を通して、自然の中で生きる多くの命のつながりやその大切さを体験的に学んでいます。これからの成長の中で、子どもたちが「命の循環」をどのように自分の言葉で語るようになるのか、とても楽しみです。

さて、1学期も折り返しの時期となりました。子どもたちは学習に精一杯取り組み、地域の先生に学んだり、友達と学び合ったりしながら理解を深めています。今年度は、子どもたちの探究心を大切にしたい教育活動の充実を図っていきます。1・2年生では生活科を通して探究の芽を育み、3～6年生では問いをもち、他者と協働しながら課題解決を図る学びを大切にしていきます。舞鶴の未来について子どもたちが考え、夢を語るよう、探究心と創造力を育みたいと考えています。

6月も多くの行事がありますが、それぞれの目的を大切にしながら、工夫と改善を重ねて取り組んでまいります。参観日後の地域分団会やプール掃除のPTAボランティアなど、今年度初めての取組も予定しております。皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

校長 高峰 真実 ・ 教職員一同